

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

Ⅰ めざす学校像

建学の精神に則り、未来を生き抜くことができる資質・能力を培い、社会に貢献する自立した女性を育てる学校をめざす。本校では、「社会に貢献する自立した女性」を育成するために必要な資質・能力を、学力・協働性・主体性の３つと考える。この３つの資質・能力を構成する、『学ぶ力、考える力、解く力、認め合う力、行動する力（KINRAN PRIDE）』を全ての教育活動を通じて育成する。
(1) 学力
① 学ぶ力＝生涯にわたり絶えず学び続けようとする意欲・姿勢
② 考える力＝習得した基礎的・基本的な知識・技能を、社会における様々な場面で活用できる力
③ 解く力＝習得した知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果を獲得するとともに、その成果を発信する力
(2) 協働性
認め合う力＝「ありのままの自分」を認め、他者の多様な個性や価値観、文化を理解し互いを尊重し人間関係をつくる力
(3) 主体性
行動する力＝自らの役割を把握し、その役割を果たすため、自リツ(自立・自律)的に行動する力

Ⅱ 中期的目標

(1) 学校教育デザインの確立
① 学校教育デザインの具体化
全ての教職員は、「これからの社会に貢献する自立した女性」を育成する学校教育デザイン（めざす学校像・生徒に育みたい力）を具体化、共有化し、生徒・保護者に発信するとともに、日々の教育活動を見直し、生徒指導、学習指導を改善する。
② 「５つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進
ア) グローバル人材の育成と近年強化していた英語教育の取り組みを活かした国際理解（G S）コースを設置する。
イ) 学校教育デザイン（めざす学校像・生徒に育みたい力）に向けて現コースの成果と課題を検証し、コースのカリキュラム改編を含めコースの再編を検討する。
ウ) 中学部においても、その成果と課題を検証し、円滑な中高接続ができるように、カリキュラム改編を含め中学部の充実を図る。
(2) 学力の向上
① 学力向上策（基礎学力・学習習慣定着策）の実施
ア) 教職員は自ら「学ぶこと」の重要性を理解し、それに基づいて教育活動を行う。
イ) 多様な生き方を自分で判断し選択できる女性を育成するために、教職員は生徒に対して、「学ぶこと」の意味を理解させ、「学ぶ意欲」を喚起することで「自己効力感」を持たせる。あわせて、授業規律の確立、ICT の活用などで家庭学習の定着を図ることで、基礎学力の充実を図る。
② 授業力の向上
教職員の授業力向上を図ることで、すべての教科において、アクティブ・ラーニングを推進し、基礎的な知識や技能を活用し、論理的に考え、まとめ、発表する力を育成する。
③ 「総合的な探究の時間」のプログラムの確立
「総合的な探究の時間」（高校）・「総合的な学習の時間」（中学）のプログラムを確立するなかで、多様な人々・文化の出会いを通じて、コミュニケーション力、課題設定・課題解決能力を育成する。
(3) 進学実績の向上
① ３年間・６年間を見通した進路指導体制の確立
ア) 進路指導部は、各学年・教務部と連携し実力テストや模試等の客観的なデータを活用し、高校３年間を見通した進路指導体制を確立し、これからの社会で自立して生きていくために必要とされる、進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。
イ) 中学部は進路指導部と連携し、中高連携を図り、高校進学を含めた６年間を進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。
② キャリア教育の推進
これからの社会に貢献する自立した女性を育成するため、各コースは、金蘭会の強みである教育的リソース（大学、保育園、病院等）を活用したキャリアプログラムを確立し、社会で求められる女性の生き方、働き方を考える、３年間・６年間を見通したキャリア教育プログラムを策定する。
③ 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携
千里金蘭大学とのより効果的で密接な連携により、内部進学者を増加させる。
(4) 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成
① 人間関係づくりの充実
各学年が、HRや道徳、学校行事等を通じて、生徒一人ひとりが多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる、自分のすばらしさを認め他者を尊重し受け入れる豊かな心を育み、多様性を尊重し共生する力、自立・自律する力を育成する。
② 生徒の主体性の育成
生徒指導部は、生徒指導方針や学校行事の目的・意義を再確認し、多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる主体的に考え行動する力を育成する。
③ 支援が必要とされる生徒への対応
ア) すべての教職員は、「支援」という観点で日々の教育活動を見直す。
イ) 生徒支援委員会は各学年と連携して、発達特性や不登校傾向生徒への支援策を検討し実施する。あわせて、スクールカウンセラーだけでなく、外部の医療機関等との連携も強化する。
(5) 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立
① 募集広報活動の強化と体制の充実
本校がめざす新たな教育の魅力を全面的にアピールするため、保護者や受験希望者、中学校や塾等のニーズを把握し、評価と分析を徹底し効率的で効果的な募集広報戦略を立てる。
② P D C Aサイクルの徹底
各分掌・学年は、具体的なデータや根拠に基づいた総括や評価を徹底し、課題と方針を明確にするPDCAサイクルを確立する。
③ 組織運営体制の充実と教師力の向上
機能的な組織運営を図るため、職務の役割と責任を自覚する。計画的な人事計画のもと、適切な教員配置を実現する。また、外部教育機関等との連携を深め、教職員のスキルアップを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和５年実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
Ⅰ 学校教育デザインの確立	(1) 学校教育デザインの具体化	○組織方針の立案と組織の活性化 各部長・主任は、各組織をまとめ、「5つの力」を3年間(6年間)で育成する方針を明確化し、組織間連携を深め、職員会議、企画運営委員会、教科主任会議を通じて共有化する。	●アンケート「満足度」 (保護者)95% [91%(R4)] (生徒)95% [86%(R4)] (教員)90% [81%(R4)]	
	(2) 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進	① 総合的な探究の時間、課題解決型修学旅行、外部団体[NPO等]との連携事業の成果から、より発展させカリキュラム全体に広げ、カリキュラムの充実を図る。 ② 金蘭会高大連携連絡会議を窓口に、高大連携プログラムの効果的な実施、内容の充実を図る。また、他の外部組織(医療機関、幼稚園・保育所、大学)との連携も推進する。 ③ 授業方法の工夫(習熟度別授業・チームティーチング)の成果を受け、引き続き学力の定着を図るとともに、学力上位層の生徒の学力をさらに伸ばす取組の実施など、個に応じた丁寧な指導を実施する。 ④ 中学部では、引き続き学力保障の取組みの充実を図る。また、高校を含め、千里金蘭大学・金蘭会保育園、地域や同窓会等との連携を進め、連携授業や職場体験等キャリア教育の充実を図る。	●アンケート「特色ある教育活動」 (保護者)90% [81%(R4)] (生徒)90% [82%(R4)] (教員)70% [25%(R4)] ●アンケート「教育方針明示」 (保護者)95%[85%(R4)] ●キャリアプログラム体験週間の実施	
Ⅱ 学力の向上	(1) 学力向上策の実施	① 授業方法の工夫(チームティーチングや習熟度別授業)を進化することでわかりやすい授業の充実を図る。 ② 学力上位層の生徒の学力をさらに伸ばす取組みの充実をはかるため、授業づくりの研修を進める。	●アンケート「授業満足度」 (保護者)85% [76%(R4)] (生徒)85% [76%(R4)] ●アンケート「授業改善」 (保護者)90% [80%(R4)] (生徒)85% [75%(R4)] (教員)90% [77%(R4)] ●アンケート「参加体験型」 (生徒)70% [55%(R4)] (教員)65% [47%(R4)] ●アンケート「考えをまとめ発表」 (生徒)90% [79%(R4)] (教員)60% [50%(R4)] ●アンケート「家庭学習定着」 (保護者)90% [77%(R4)] (生徒)80% [68%(R4)] (教員)65% [57%(R4))] ●アンケート「キャリア教育」 (生徒)75% [66%(R4)] (教員)65% [55%(R4))] ●アンケート「生き方を考える」 (保護者)95% [87%(R4)] (生徒)85% [73%(R4)] (教員)60% [52%(R4)] ●授業公開と研究協議会の開催 ●外部講師による研修	(
	(2) 授業力の向上	① 教科主任会議・コース長会議の定例化を図り「観点別評価」の課題を明らかにする。 ② kinran labと連携し、研究授業週間年2回(6月、11月)に設け、教員相互の授業見学を実施する。また、各教科は期間内で必ず研究授業を実施する。 ③ 金蘭若手塾と連携し、授業づくり・評価の在り方・生徒理解を中心とした研修を行い、『金蘭会授業スタンダード』を作成する。		
	(3) 「総合的な探究の時間」のプログラムの確立	① 高校において、「総合的な探究の時間」の3年間プログラムを確立する。また、修学旅行は、「課題解決型修学旅行」として位置づける。 ② 中学において、道徳と連携し、キャリア教育の観点で、「総合的な学習の時間」の充実を図る。 ③ 金蘭会高大連携連絡会議を窓口に、高大連携プログラムの効果的な実施、内容の充実を図る。 ④ 中学部は、中高連携の取組を図り、高校進学を含めた6年間を見通した、進路意識の醸成と進路を実現する学力を育成する。		

3 進学実績の向上	(1) 3年間或いは6年間を見通した、一貫した進路指導体制の確立	① 計画的な進路HRや進路学習を通して3年間・6年間を通した継続的な進路学習計画を実施する。 ② 最新の進路情報をかりやすくて確な情報を提供し、3者すべてにおいて進路意識を高めていく。 ③ 実力テスト(11月)を高1・2で1回ずつ実施。高3では2回(6月・9月)実施し、正しい学力をはかり進路への正しい認識を持たせる。 ④ 進路指導部と学年の連携を図り、実力テスト等のデータをしっかり把握して、学力の向上をめざす。	●アンケート「進路指導(連携)」 (保護者)95%[86%(R4)] (生徒)90% [78%(R4)] (教員)75%[62%(R4)] ●アンケート「進路指導(取り組み)」 (保護者)95% [90%(R4)] (生徒)95% [84%(R4)] (教員)65%[55%(R4)] ●保護者対象の進路説明会実施 ●アンケート「キャリア教育」 (生徒)75% [66%(R4)] (教員)65% [55%(R4))] ●アンケート「生き方を考える」 (保護者)95% [87%(R4)] (生徒)85% [73%(R4)] (教員)60% [52%(R4)] ●コース独自キャリアプログラムの実施 ●アンケート「大学等との連携」 (保護者)95% [86%(R4)]	
	(2) キャリア教育の推進	① 進路学習については、高校の各学年課題に応じて「職業別」・「学問分野別」・「入試直前」等の進路HRを実施する。 ② 「社会で貢献する女性を育てるプログラム」として「進路探求プログラム」を実施する。 ③ 保護者対象のキャリア教育プログラム(進路説明会等)を充実させ、進路情報の発信を強化する。 ④ 教員進の路指導力を強化するため、入試制度やその他進路に関わる情報を共有するとともに進路研修を実施する。		
	(3) 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携	① 中学部でのプログラ高校・大学間に担当者・実務者会議を通じて、進路HR、「総合的な探究の時間」、各教科、その他学校行事等で円滑に効果的な連携を進め「中高大連携プログラム」の充実を図る。 ① 3者面談期間(6月・11月)に千里金蘭大学説明会の実施、学長はじめ大学関係者の講話などの活動を通じて内部進学を促進を図る。		
4 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成	(1) 人間関係づくりの充実	① 学年は、生徒の状況の集約に努め、学年の3年間を見通した「学年集団づくり」方針を確定する。 ② 市民として主体的に社会に参画する力を育成するため、生徒を主語にした安全・安心なクラス・学年集団づくりを行う。 ③ 学年は、学年行事(修学旅行、遠足等)での生徒による主体的・自治的な取り組みの促進を図るため、生徒実行委員会等を組織する。	●アンケート「人権教育」 (保護者)95% [85%(R4)] (生徒)85% [75%(R4)] (教員)70% [31%(R4)] ●アンケート「安心安全な環境」 (保護者)95% [85%(R4)] (生徒)90% [80%(R4)] (教員)70% [59%(R4)] ●アンケート「いじめへの対応」 (保護者)95% [88%(R4)] (生徒)90% [77%(R4)] (教員)80% [69%(R4)] ●アンケート「生徒指導方針」 (保護者)90%[81%(R4)] (生徒)80% [73%(R4)] (教員)70% [40%(R4)] ●アンケート「方針への共感」 (保護者)95% [84%(R4)] (生徒)80% [70%(R4)] (教員)85% [73%(R4)] ●アンケート「学校行事」 (保護者)95% [91%(R4)] (生徒)95% [86%(R4)] (教員)75% [63%(R4)] ●アンケート「生徒自治会活動」 (保護者)90% [82%(R4)] (生徒)95% [86%(R4)] (教員)80% [60%(R4)] ●アンケート「教育相談体制」 (保護者)95% [88%(R4)] (生徒)90% [77%(R4)] (教員)70% [52%(R4))]	
	(2) 生徒の主体性の育成	① 成人年齢が18歳になることを受け、市民として主体的に社会に参画する力を育成するため、制服問題について、生徒委員会を組織するなど主体的な取り組みを推進する。 ② 蘭祭・体育祭等の学校行事について、昨年に引き続き、生徒自治会を核に生徒の参画を推進して行く。自治会と生徒委員会を連携させて、実施形態や方法を検討し、生徒による運営を進める。		
	(3) 支援が必要とされる生徒への対応	① 生徒支援委員会の定例化を図る。学年は、一定の基準(文科省基準に基づく)に基づき、生徒をリストアップし、状況を丹念に把握する不登校生徒対象の学習支援体制の充実を図る。 ② 生徒支援委員会は、生徒支援策の具体化のため、引き続きスクールカウンセラーと連携を密にとる。また、出身中学など関係機関と連携する。 ③ 支援教育コーディネーター(正・副)を核に生徒支援のサポート体制を整備する。 ④ 先進校(通信制も含む)の取り組みを参考に、各教科が責任をもって教材研究(教材づくり)を進める		

5魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立	(1) 様々な場面を通じた効果的な募集広報活動への改革	① イベントでは、学校が変わろうとしている姿がストレートに伝わるような広報活動(イベント内容の改善、ホームページ・SNSの充実)を図る。 ② 訪問活動に関しては、重点地域(主に大阪市内)を過去の実績から大きく見直し、集中して訪問する体制を整える。	●中学校オープンスクール参加数 各回 20 組以上 ●中学校入試説明会参加数 各回 20 組以上 ●高校オープンスクール参加数 各回 100 組以上 ●高校入試説明会参加数 各回 100 組以上	
	(2) 将来安定的な中学入学者の獲得	○ 地域との連携強化を強化する。北区との連携事業への参加、土曜日プログラムの復活(小学生対象の英会話教室など)の充実を図る。	●学校運営協議会の実施 ●自己評価アンケート結果と学校運営協議会評価のホームページ公開	
	(3) P D C A サイクルの徹底	○ 各分掌学年は、具体的なデータや根拠に基づいた総括や評価を徹底し、課題と方針を明確にする P D C A サイクルを確立する	●教職員研修の実施 ●若手対象教職員研修の実施回数 ●アンケート	
	(4) 組織運営体制の充実と教師力の向上	① 主任・部長の職責の徹底を図る。各部長・主任は、明確で具体的な方針を組織に提示し、議論を深め共有化を図る。また、論点が整理された方針を会議に提示し全体での共有化を図る。 ② 金蘭若手塾や KinranLab. を核に、中堅・若手層が中心となって、授業力向上や学校が直面する課題(制服問題等)を課題解決に取り組む。具体的には、『金蘭会授業スタンダード』の作成、制服検討員会での検討・提案を行う。	「教員間連携」 60% [31%(R3)] 「会議運営」 60% [45%(R3)] 「計画的な研修」 60% [41%(R4)] 「若手教員の育成」 60% [38%(R3)] 「校外研修」 60% [24%(R3)]	